

焦点/争点

<1月>

知識は水だ。独占してはいけない。年末の漫才コンテスト「M-1グランプリ」で3位だったお笑いコンビ「ぺこぼ」のネタの一節だ。インターネットで誰もが情報発信者になれる今は、ぺこぼが訴えた「知の民主化」が実現したとも言える。

だがその弊害も深刻化している。事実を反し感情をかき立てるフェイクニュースのまん延だ。国際基督教大教授の森本あんりは「政治的神話と社会的呪術」(世界2月号)で、底流に個人の自己決定を重視する米国の反知性主義を見る。

反知性主義の考えでは、大手メディアで発信する「知的エリート」の言葉を疑うことが正しく、故にツイッターなど誰でも情報を発信できる「平等で民主的」なツールと

親和性が高い。「自分たちは権力者に騙されている」と感じる人々の心に「事実」は響

ヘイトとフェイクニュース

本物の「手触り」で対抗 紙の雑誌 速度の暴力へ起点

インターネットニュースサイト「Yahoo!ニュース」の実態に迫ったのはノンフィクションライター石戸諭「進撃のYahoo!」(ニューズウィーク日本版)12月17日号)。新聞や雑誌の配信記事から、注目のニュースを選別する担当者が「私たちに権力はありません。私たちにいるのは影響力です」とうそをつく。

ヤフーが記事の配信元のメディアに対し、韓国に絡む記事がよく読まれるとデータを示した後、ネット上の韓国関連の記事が増加したと分析した上で、Yahoo!ニュースの感想コメント欄に韓国への差別的書き込みが相次いだと批判する。

そうした「ヘイト(憎悪)」に立ち向かう年一回刊の雑誌「対抗言論」が創刊された。

「あらゆる表現はプロパガンダなのか?」で批評家藤田直哉は、右派が「日本」対「反日」という二項対立にこだわり「あらゆる表現を『プロパガンダ』だと受け取りやすい」と指摘。左派もフェミニズム



かず、「納得感」を得られる言葉ばかりが重視されると森本。

膨大な読者数を誇るインタ

このほかの注目論考

「教育改革神話を解体する」

「中央公論」2月号

荻谷剛彦・英オックスフォード大教授

入試を変えれば授業が変わり、授業が変われば「発展的に自分の考えを形成する」力が育つはずだという危うい推論が、大学入試改革を巡る迷走の背景にあると分析

「ジモトを歌う 川崎の在日コリアン・ラッパーの世界観」

「都市問題」1月号

川端浩平・津田塾大准教授